

令和元年度 第1回 蒲郡市ごみ減量推進対策協議会 議事録

1 あいさつ

千賀課長より挨拶

2 自己紹介

坂部委員、細井委員、石川委員、柴田委員、太田委員、安藤(和)委員、鈴木委員、志賀委員、今泉委員、小久江委員、竹内委員、来本委員、西浦委員、安藤(嘉)委員より自己紹介

3 役員選出

会長は坂部委員

副会長は細井委員、石川委員

4 議題

(1) 蒲郡市一般廃棄物ごみ処理基本計画の策定(見直し)について

(2) ごみ処理の現状とごみ排出量等の現状について

事務局より「資料1：蒲郡市一般廃棄物ごみ処理基本計画の策定(見直し)」、「資料2：ごみ処理の現状とごみ排出量等の現状」について説明

坂部会長	ご意見、ご質問ありますか。
西浦委員	資料1において、計画の達成度はどう評価するのか。5年の途中だが。
事務局	進捗状況を確認し、社会情勢の変化を反映するなど、計画の見直しをする。 評価については、この後の計画の進捗状況の中で説明するので、ご意見を頂きたい。
西浦委員	統計の数字で、資源を除く考えはいいと思う。 資料2の全国平均、愛知県平均は資源を含んでいるのか。
事務局	ここにある数値は、全国も県も資源を含む数値である。実態調査で公表されている家庭系ごみは、資源を含んでいないため比較は難しい。今後は実態調査と合わせつつ、資源を除いた排出量も整理したい。
来本委員	概要版3ページのリサイクル率と、資料25ページのリサイクル率の関係はどうなっているのか。
事務局	リサイクル率は、平成24年度実績から平成26年度の数値では一旦上がったが、その後、少しずつ下がっている。
来本委員	埋立ての実績値は、記載されていないのか。
事務局	今回の説明では省略している。
石川副会長	プラスチックごみやペットボトルは、中国が引き取ってくれないということがあるが、蒲郡市にも影響はあるのか。
事務局	蒲郡市の中では大きな影響はない。
竹内委員	見直しということだが、今後は広域化でごみ処理をするということがある。 広域の場合、他市との調整はどうか。

事務局	豊川市、新城市、北設地区と焼却施設を一つにする計画がある。 計画づくりでは、広域化計画のある他市町の処理状況を考慮しながら進める必要がある。
坂部会長	ごみの排出量の実績を見ると、まだまだごみの減量は進んでいない。目標達成のためには、さらなる減量が必要である。 また、市の計画と県の実態調査でごみの内容も違い、市民に分かりにくい。見直しの中で、ごみを定義し、新たな目標の設定を提案するので検討していただきたい。

(3) 現行の排出抑制・資源化施策の進捗状況と課題の抽出について

事務局より「資料3：現行の排出抑制・資源化施策の進捗状況と課題の抽出」について説明

坂部会長	ご意見、ご質問ありますか。
竹内委員	啓発について、気になっているものがある。マイクロプラスチックというものがあって、海に流れたプラスチックを海洋生物が食べるといった問題、海洋資源も減ってきていることや人間の体にもプラスチックが蓄積する原因になるとも言われている。海をきれいに、おいしいものを食べるという方向から、市民に分かりやすく啓発していただきたい。
事務局	色々なご意見を答申としてまとめたいと思う。ごみが影響して繋がっていく問題なので盛り込めたらと思う。
石川副会長	資源のごみ出しマナーで、外国の方が増えているが、分からない人もいるので、外国語の看板を取り付けたりしている。分かっているルール違反をする人もいるので、監視カメラなどの対策も必要である。 出前講座では、紙ごみの資源化についての知識が少ない方が多い。小さな紙も資源化できるなど雑紙に対する理解が進んでいない。
事務局	マナー、出し方については、多くの方にご協力いただいているところであるが、外国人向けの啓発も検討、対応している。 雑紙に対する啓発の重要性は十分認識するところであり、取り組みを考えていきたい。監視カメラも増やすことを考えている。
竹内委員	アピタの資源物の回収品目が増えている。大体のルールは守られているのか。
柴田委員	他の店舗よりは理解していただいている。ボックスの場所にもよるが、出してからすぐ帰れるような場所にあると守られないこともあるが、店舗内の人目につくところでは守られているのかなと思う。
竹内委員	びんの店頭回収は助かっている。
細井副会長	行政の取り組み、環境教育で分別を学ぶことはいいと思う。「海と空を美しく」海の話は先程でもあったが、子どもたちが大島に行ってごみ拾いをするなど、子どもたちにも学校教育の中で環境活動を実践し、現状を見てほしい。
事務局	子どもたちにも、環境チャレンジなど、様々取り組んでいただいているところであるが、ごみ拾いを実践するなどの環境活動も重要である。教育委員会とも協議してみたい。

今泉委員	三谷中学校と老人会ではやっている。
西浦委員	5 ページにある民間の古紙回収ステーションが市の回収する資源の減少の影響なのか、そうは思わないが。
事務局	紙類については、大きく減っている。減少には何らかの要因があり、その他、新聞紙の減少や印刷物の電子化などの要因もあると思う。
西浦委員	雑紙の分別は大事だと思う。空き箱もごみになっているものが多いので、資源化が大事であり、市も啓発を進めていただきたい。 資源化をしようと思うとお金が掛かる。資源化の施策には予算を取る努力も必要であり、がんばっていただきたい。
細井副会長	パトロールは何時ごろ行っているのか。
事務局	夏場は6時から10時まで、冬場、10月からは6時30分から10時30分まで行っている。
細井副会長	資源物の持ち去りは減ったと思うが、夜中に置いていくと目茶苦茶にされる。パトロールを夜中に回れとは言えないが、防犯カメラの効果はある。 防犯カメラは、数も少ないので、正しいごみ処理のためにも予算を取って、カメラの設置を考えていただきたい。
竹内委員	センサーのライトだけでもいいのではないか。
細井副会長	ダミーはわかってしまうので、酷いところだけでも設置してもらいたい。
事務局	様々な問題はあると思うが、適正数に向けて増やすことも考えていきたい。
小久江委員	早く出しても時間通り回収するということが、時間どおりに取りにこないということもある。夜中に業者が出したりもするが、先ずは、一般の方が時間を守って出すことが大切である。 資源回収では、学校の先生も手伝う、親御さんも大変である。 お金で対処することではないかもしれないが、きれいな地域にするために補助をしてはどうか。
細井副会長	どこの地域がきれいかどうか、パトロールでチェックするのはどうか、励みになるし地域も喜ぶ。
事務局	クリーンサポーターの皆さんには資源物の回収量の報告をし、感謝を述べている。悪いところはなかなか言いづらい。 お金を掛ければというところはあるが、難しいところもある。地域には、ステーションの管理についても予算が出ているので、地域で活用していただきたい。
安藤(嘉)委員	3Rとか5Rとかが分からないので、ご説明いただきたい。
事務局	リサイクルなどの頭文字をとってRとしているが、資料にあるごみ処理基本計画概要版の4ページをご覧ください。
坂部会長	市民や事業者、市が連携して多くのごみ減量の取り組みを行ってきている。これまでの進捗状況については、説明の進捗状況であり、また、これまでの取り組みについては、継続して本計画に盛り込んでいくことで承知いただきたい。 さらなる施策、取り組みを事務局が整理するので、次回の協議会でご意見いただきたい。

5 その他

坂部会長	何かありますか。
西浦委員	何回で決める予定なのか。
事務局	現時点では今回を含めて3回と考えている。 施策を次回粗方決めたら、第3回協議会までにまとめていきたい。
志賀委員	雑紙には、レシートなど色々ある。東京ではごみの中にレシートが入っているだけで、持っていかないなど厳しい対策を取っている。蒲郡はあまいと言われる。最近、男性のごみ出しが多い。基本的な勉強は男性の方にもしてもらい必要がある。
坂部会長	幸田町はトップクラスである。
石川副会長	幸田町はごみ袋がすごく高い。高くすれば減るということもある。
志賀委員	分別自体もまだまだ見直してほしい。
細井副会長	周りの自治体と歩調を合わせることも必要である。蒲郡は分別があまいということで蒲郡にごみを持ってくる人もいる。
西浦委員	有料化すれば減るとは言い切れないし、リバウンドもある。市民が減量努力をどうするかということだと思う。
石川副会長	何をどのように分別するのか市民が分からないことを、市が理解したうえで啓発していかなければならない。
西浦委員	どんなごみを減らさなければならぬか具体的に決めて、啓発するとよい。
小久江委員	有料化については、最後の減量手段としてはいいが、まだやることがある。
志賀委員	資源物の持ち去りは、パトロールや立ち番の方のおかげで減ってきているが、時間をずらして資源を持っていくこともある。 持ち去りの方策はまだ必要である。
細井副委員	生活にしている人もいる。防ぐには難しいところもある。
小久江委員	市外からごみを持ってくる人がごみを出しづらくなるように、ステーションの位置を道路の反対側に変えると防ぐことができるかもしれない。 変なものが出るステーションは、廃止を考えてみるのもよい。
事務局	行政からはこちらにしてくれとか、廃止してくれとは言えないので、ステーションを設置・管理している地域で考えてほしい。
鈴木委員	レジ袋で出しているものが家の前に出されている。カラスに荒らされていたりし、結局片付けるのは自分（地域住民）である。 黄色い袋でなくても回収されている。
事務局	黄色い袋でないと違反であるが、ルール違反のごみは、一定期間その場に残し、警告するが最終的に片付けるしかない。
来本委員	女性では違反者に対し、なかなか言えない。力強く男性がしっかり言わないといけない。 大きな通りのステーションには、地域外の人が持ってくる。

太田委員	資源ごみの立ち番は当番で回ってくる。立ち番に出る人は、分別方法を勉強するが、しない人は分からないので立ち番を当番制にし、皆で行い、勉強できたほうがいいと思う。
事務局	次回協議会は、10月中旬以降で調整し、開催したい。

閉会